

IQ-Professional

Certificate in Teaching English to Young Learners (TEYL)

児童英語教師養成課程

Seminar on Teaching English to Children (STEC-pro)

国際コミュニケーション能力開発法セミナー・児童英語教育

[主催]

英国国際教育研究所

Institute of International Education in London

[認定]

英国政府国際文化交流機関

ブリティッシュ・カウンシル

The British Council



Accredited by the
BRITISH COUNCIL
for the teaching
of English in the UK





英国国際教育研究所

Institute of International Education in London



Become an English Teacher for Young Learners

英語の本場イギリスで児童英語教育について学ぶ！
同時に英語力を高める！

英国国際教育研究所 Institute of International Education in London

英国国際教育研究所(Institute of International Education in London=IIEL)は、英国ロンドンに本部を置く国際教育研究機関です。国際教育という視点から、教育本来の位置づけとその可能性について、研究および教育実践活動を展開しています。研究所は、英国の教育制度に組み込まれた国家統一試験である義務教育修了試験(GCSE)および大学入学資格試験(GCE-Aレベル)を実施する国の公的試験センター(National Examination Centre)です。

また、日本語学、言語学、日本語教育、言語教育等を研究対象とする「日本語教育協議会(The Council of Japanese Language Teaching=CJLT)」および日英の教育制度や教育問題、さらには文化研究をその主たる研究対象とする「日英の教育と文化に関する研究協議会(The Council of Anglo-Japanese Education and Culture=CAJEC)」といった両学会の本部として、総会ならびに研究発表大会の開催、研究紀要や会報の刊行等の活動を行なっています。

さらに、英国国際教育研究所・London College of Education, Graduate School(LCE-GS)の日本語教育学研究科は、「IQ-Professional/Postgraduate Diploma」、「IQ-Professional/Postgraduate Certificate」をそれぞれ授与するGraduate Schoolとして機能しています。

加えて、研究所附属の外国語教育機関であるLondon Language Centre(LLC)では、英国政府国際文化交流機関ブリティッシュ・カウンシル認定の英語教育とともに、外国語としての日本語教育に取り組んでいます。

INDEX

英国国際教育研究所	P.01
Institute of International Education in London	
開講に際してのメッセージ	P.03
Words from professors	
顧問の先生方	P.04
Academic Advisers	
児童英語教師養成課程	P.05
TEYL	
国際コミュニケーション能力開発 発法セミナー・児童英語教育	P.07
STEC-pro	
アコモデーション	P.09
Living in Greenwich	
申込方法・学費・他	P.10
How to apply and more	

英国国際教育教育研究所は英国ロンドンにて、国際教育に関する研究ならびに教育実践活動を行なっています



IIEL英国本部キャンパスCharlton Houseは、当時の国王ジェームス1世の長男Prince of Walesを始め、王族のtutorを務めたSir Adam Newton (Dean of Durham)の邸宅として1607年に建立されました。英国に現存する数少ないJacobean朝時代の伝統的遺産として、建物および内部の装飾は当時のものが大切に保存されています。また、ルネッサンスに影響を受けた英国の建造物としても注目されています。

IIEL Greenwich Campus Charlton House



Accredited by the
BRITISH COUNCIL
for the teaching
of English in the UK



Words from Professors

小学校5、6年より英語が必修になり、力のある児童英語教師が求められています。これからの児童英語教育の中心的役割を担う教員を養成します。

▶ 児童英語教師養成課程TEYL開講に際してのメッセージ



凶師照幸
英国国際教育研究所 所長
London College of
Education, Graduate
School (LCE-GS) 学長

堂々とした英語教育を 児童英語教師養成課程の開講に寄せて

小学生たちが英語を学び始めた。小学校でも町の英会話教室でも、早期外国語教育としての英語教育が始まっている。「英語活動」などと曖昧で銜(てら)いを持ったことばでごまかす必要はない。堂々とした「英語教育」に取り組むべきである。今、「堂々とした」ということばを用いたが、中学校における英語教育も、高校における英語教育も同じく、堂々とした英語教育に取り組んでもらいたい。

堂々とした英語教育とは、外国語教育が本来目指すべきものをしっかりと見据え、その実現のための豊かで確かな方法に支えられた教育のことである。ことばを変えれば、今なさんとする英語の教育によって、子どもたちは何を獲得し、その獲得したものによってどう変化するのか、まずはそのことについてよく考えたい。そしてそのために取るべき教え方や具体的に教える内容はどのようなものでなければならないか。いずれもがともに充実して初めて「教育」となる。

子どもたちにとっての外国語は、子どもたちの未来にどう関わっていくのだろうか。その外国語が中国語やポーランド語ではなく、英語であるということについても教育者として配慮すべきことがあるだろう。世界語となった英語によるコミュニケーション能力を身につけることで国際(経済)競争力をつけようとする、そのことを子どもたちの教育に位置付けることだけは避けたいと思う。競争に勝つためだけの学習は貧しく、危険である。

子どもたちは異なった価値観やまなざしを外国語から学ぶ。そのことで身につけた能力は隣人をより深く理解することを可能にするだろう。今までわずかばかりの視点で誤解していた者たちをわかろうとし、愛そうとすることだろう。隣人ばかりではない。一生会うこともない遠く離れたところで暮らす者たちの幸せを想い、考えようとするだろう。その幸せのための知性を養おうとすることだろう。英語を学ぶということが、学ぶ者のまなざしを温かいものに変え、高く尊いものに変えていく、そういったものでなければならない、そう思うのだ。

研究所は過去10年に亘(わた)って毎夏、「国際コミュニケーション能力開発法セミナー・児童英語教育(STEC)」を開講してきた。小学校や中学校の教員、英会話教室の英語教師、大学生・大学院生、さらには現職の大学教授等、さまざまな方が受講された。一度ならず、二度、三度と参加された方もいる。今回開講する児童英語教師養成課程はそれらの蓄積の上に、ポストグラデュエート・サーティフィケートの課程として開講するものである。まずは10週間、理念と方法に格闘する。(2009.10.01)



伊藤克敏
神奈川大学・大学院
名誉教授
日本児童英語教育学会
元会長・現顧問

児童英語教師養成課程への参加をお勧めします

2011年より小学校5、6年生より英語が必修化され、より良い体制作りが必要に迫られています。過去10年間開催して来た「国際コミュニケーション能力開発法セミナー・児童英語教育(STEC)」より規模を大きくし、一流の講師陣による長期的で本格的な児童英語教師養成課程が誕生することは我が国の英語教育にとって画期的で、意義深いことと言えます。

英語発祥の地で、生の英語に接し、英国国民の生活や文化に直接触れることによって、異文化教育としての英語教育のあり方を考える絶好の機会が与えられるでしょう。

小学校(児童)英語教育は我が国の外国語(英語)教育の根幹を成すものであり、それを推進するための教師養成課程から優秀な児童英語教師が続々と誕生することを心より期待し、国際化時代に活躍する人材養成への意欲に燃えた方々の参加を切望します。

▶ 顧問の先生方 Advisers

[英国]

Annie Hughes 英国ヨーク大学教授

Dr. Alessandro Benati Professor/Head of Department
American University of Sharjah, UAE

[日本]

アレン玉井光江 青山学院大学教授、
テンブル大学大学院日本校 准教授
池下 幹彦 姫路獨協大学名誉教授
伊藤 克敏 神奈川大学・大学院名誉教授(日本児童英語教
育学会JASTEC元会長・現顧問)
奥田 邦男 広島大学名誉教授(国立大学日本語教育研究協議
会元代表理事・現顧問)
奥田 久子 広島修道大学名誉教授
加藤 清 元CBCアナウンス部部长
栗山 昌子 福岡女学院大学・大学院元教授、
現大学院非常勤講師
黒井 健 絵本作家
「手ぶくろを買いに」「ごんぎつね」他
坂本ひとみ 東洋学園大学教授
富田 祐一 学習院大学教授、
元「NHK基礎英語 I」講師

浪本 勝年 立正大学名誉教授、
日本教育政策学会会長
尾道市立大学教授
東京学芸大学教授
東京芸術大学教授
愛知県立大学教授
NPO法人沖縄児童英語研究会会長
県立広島大学教授
中央大学教授、
日本第二言語習得学会J-SLA会長
高知大学名誉教授、京都ノートルダム
女子大学特任教授、京都大学非常勤講
師
元名古屋大学大学院教授
Liang Chua Morita



1



2



3



4



5



1. IIEL Greenwich Campus, Charlton House
2. Greenwich mean time
3. Big Ben and Houses of Parliament
4. The Tower Bridge
5. The Changing of the Guards

IQ-Professional

児童英語教師養成課程

Certificate in Teaching English to Young Learners (TEYL)

英国ロンドンで児童英語教育のプロを目指すコースです。早期外国語教育としての英語教育を担当する教員に必要と思われる教育理念、国際感覚、知識と技術を身につけます。

▶ コースの特長、カリキュラム

Key Information

■ 開講時期・期間・受講時間

1) 昼間コース <オンライン>
①2021年9月29日～2021年6月22日
火/10:30～12:30
※12月16日～1月11日を除く

②2021年1月13日～6月23日
月・水/10:30～12:30
※2月15・17日、3月25日～4月18日、5月9・31日、6月2日を除く

③2021年6月28日～12月8日
月・水/10:30～12:30
※7月29～9月5日、10月25・27日を除く

2) 土曜コース <オンライン>
2021年1月16日～4月24日
土/10:30～15:30
※4月2日を除く

3) 夏期集中コース
2021年8月9日～8月28日
月～土 9:00～16:15

■ 定員

12名(応募者が多数の場合は2クラス以上の編成とすることもある)

■ 夏期キャンパス(London)
英国国際教育研究所・英国本部(Charlton House)

■ 対象

- ①小学校教員および小学校教員を目指す大学生・短大生等
- ②児童英語教師および児童英語教師を目指す大学生・短大生・保護者等
- ③その他、英語教育に興味のある人

■ 入学審査

あり(詳細はP10参照)

■ 出願資格

- ①20歳以上の人
- ②英語力(高校卒業程度)

コースの特長

1. 英国政府国際文化交流機関ブリティッシュ・カウンシルが認定する教育機関がCertificateを授与
2. 日本児童英語教育学会元会長をはじめとしたアカデミック・アドバイザー・グループ

カリキュラム

■ 子どもたちが英語を学ぶ意味について考える

- ・国際理解教育原論
- ・コミュニケーション学
- ・学校と教師
- ・小学校英語と児童英語
- ・カルチュラル・スタディーズ
- ・ロンドンの小学校訪問

■ 子どもたちが学ぶ英語について熟知する

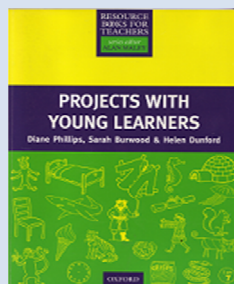
- ・児童英語教師のための英語
- ・発音・構文・文法・語彙意味
- ・子どもの生活と英語
- ・ケンブリッジ児童英検

■ 子どもたちに英語を教える方法について学ぶ

- ・児童英語教授法
- ・教材開発法
- ・クラスルーム・イングリッシュ
- ・タスクベースト・ラーニング
- ・プロジェクト・ワーク
- ・SLA 第二言語習得理論

※カリキュラム・授業内容は、教育課程の充実を図るため、変更・改訂されることがあります。

注目の「プロジェクト・ワーク」の応用



プロジェクト・ワークとは、英国の小・中・高で採用されている学習形態です。子どもたちは課せられたプロジェクトを完結させるために、主体的に行動し、様々な角度からリサーチを行なっていきますが、その過程でコミュニケーション力やリサーチ力、問題解決力等、総合的な学びが促されます。このプロジェクト・ワークの英語教育への応用が今注目されています。

当課程では、プロジェクト・ワークの理論および具体的な方法を整理し、日本の小学校英語教育におけるプロジェクト・ワークの応用方法について学習します。

授業ピックアップ

1. 国際理解教育原論

国際理解教育の位置づけと可能性について整理します。日本の子どもたちが英語を学ぶことの意味について考えます。また、ロンドンの小学校を訪問し、英国の子どもたちが学ぶ異文化についても考えます。



2. 最新の児童英語教育理論・方法

児童英語教育の様々な理論について整理するとともに、児童英語教育の最新の方法について学びます(プロジェクト・ワーク、タスクベースト・ラーニング、その他)。

3. 児童英語教師に必要な英語力

クラスルーム・イングリッシュ(実際の教室で用いる英語表現)をマスターするとともに、英語発音の練習と矯正(自分の発音を正しくするとともに、発音矯正の方法)について学びます。

4. ロンドンの小学校訪問

英国の小学校の校舎や教室の様子、実際に行われている授業の様子を見学します。また、子どもたちに日本を紹介する「Culture Talk」を実施しますので、ロンドンの小学校での教育体験ができます。
※オンラインのコースでは実施されません。

卒業生からのメッセージ

子どもたちを理解することの大切さ

コミュニケーション学やプロジェクト・ワークを含む様々な講師の先生方の授業は、子どもたちに英語を教えていくにあたり必ず知っておかなければならないものだと考えさせられました。やはり子どもたちの発達・心理など様々な点から理解し国際理解を子どもたちと共に深めていけることがクオリティの高いレッスンだと思えるようになりました。これから児童英語教育に携わる際にはしっかりと自分の目標を持って指導していける立場でありたいと思います。今までの経験から学んだこと、そしてこの度このコースで学んだことを生かせるよう努めていきたいと思っています。

C.Yさん(30代女性)

5. カルチュラル・スタディーズ

ロンドンや英国について知るということを目的に、国際都市ロンドンが持つ様々な表情を見つめます。「英国の文化(ロンドンの名所、英国の生活文化)」、「英国やロンドンの中の日本」に関する講義に加え、リサーチを行います。また、ブリティッシュ・ミュージアム(大英博物館)やナショナル・ギャラリー(国立美術館)等の名所を訪問し、日本の学校で子どもたちに英語や英国について教える際の教材(スクラップ・ブック)を作成します。

6. ケンブリッジ児童英検の応用

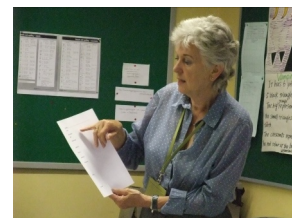
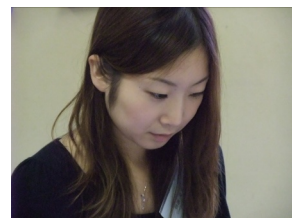
世界中で実施されているYoung learnerのための試験です。グローバルスタンダードな試験を分析し、子どもたちが英語を勉強する際の目安として応用していきます。



心豊かな教育ができる人になりたい

教師として一番大切な事は、教える事や人と接する事が心から好きな事だと思います。教師がいつも一生懸命まっすぐ前を向いて教える事に喜びを感じていれば、その心は必ず子どもたち・学習者の心に響くものと思います。私は今はまだ児童を教えるか、中・高校生を教えるのか決めていませんが、いずれにしても英語のスキル、そして、人間として成長しようという向上心を忘れることなく心豊かな教育ができる人になりたいと思います。

Y.Iさん(30代女性)



1. IIEL Greenwich Campus, Charlton House
2. Gardens at Charlton House
3. 授業の様子
4. 授業の様子
5. 授業の様子
6. 授業の様子

国際コミュニケーション能力開発法セミナー 児童英語教育

Seminar on Teaching English to Children (STEC-pro)

既に日本の民間の英語教室で児童英語教育に携わっておられる先生方、小学校・中学校・高等学校・大学の先生方、大学で将来小学校・中学校・高等学校の教員を目指している学生の皆さんが対象です。2020年は「小学校英語の可能性」をテーマに児童英語教育に必要な最新の教授理論および具体的教授法等について学びます。

▶ コースの特長、カリキュラム

Key Information

■ 開講時期・期間・受講時間
2021年
8月2日(月)～8月6日(金)

■ 定員
1クラス20名程度

■ キャンパス(London)
英国国際教育研究所・英国本部(Charlton House)

■ 対象
①民間英語学校にて英語教育に従事している方、またはこれから従事しようとしている方。
②小学校で英語教育を担当している方、あるいはこれから担当しようとしている方。
③大学等で英語教育について学んでいる方、あるいは小学校教員を目指している方

■ 入学審査
なし

コースの特長

1. 英国政府国際文化交流機関ブリティッシュ・カウンシルが認定する教育機関が履修証明書を授与
2. 現場を熟知している日本の児童英語教師養成機関English Upliftとの共催
3. 日本児童英語教育学会元会長をはじめとしたアカデミック・アドバイザー・グループ

セミナー内容

国際理解教育原論/外国語教育原論

「どうしてわたしたちは英語を学ばなければならないの?」という子どもの問いに英語教師としてどう答えるのか。

コミュニケーション学

言語的コミュニケーションと思考様式について考える。

教育心理学

子どもたちの発達と心理、学習過程と心理について整理する。

ブリティッシュ・イングリッシュ

米語ではない、いわゆる英語本来の発音や文法等について学ぶ。

プロジェクト・ワークの応用

英国の学校教育において中心的な活動として位置づけられているプロジェクト・ワークについての理論や児童英語教育への具体的な応用方法を、「Project with Young Learner」の著者が講義する。

Non-Target English Approach

練習としてのアウトプットではなく、実際に英語を使う場面設定の重要性と方法について学ぶ

次世代型スキル4C's

知識偏重の英語教育から非認知能力を育てる英語教育について考える。

英国ロンドンにおける小学校における第一言語としての英語教育の実際

現地校における初等母語教育(英語教育)がどのようになされているかについて小学校教師の説明を聞く。

ケンブリッジ児童英検

ケンブリッジ大学UCLESが世界的に実施している児童英語検定試験について学ぶ。

英国の国の公的義務教育修了試験および大学入学資格試験における日本語試験の実際

両試験のシステムと具体的な内容について学ぶ。

カルチュラル・スタディ

受講生自身が与えられた課題をロンドンの街中で経験学習する。

英語が生まれた国、イギリスの空気を吸いながら、子どもたちが英語を学ぶ意味について考えるとともに、児童英語教育に必要な最新の教授理論および具体的教授法等について学びます。



—— 小学校英語の可能性 今一度、挑もう

英国国際教育研究所
所長 図師照幸

いよいよ小学校における英語教育(外国語活動)が教科としての新しい歩み始める。さまざまな議論はひとまずおいて、これからは、曖昧な位置づけや取り組みは許されない。より具体的な課題に取り組むことになるのだ。小学校の先生は傍らの問題として横目で眺めておくことがとうとうできなくなった。国語や算数を教える時のように評価についても意識しないわけにはいかない。教えるということがわか仕込みではうまくいかないということを最もよく知っているのが現場の学校の先生たちである。子どもたちに教えたことのない大学の先生たちや評論家、ましてや無責任さに恥らいさえ感じないメディア(新聞やテレビ等)の連中にはおそらくわからないであろう「ためらいのある触感」をどう乗り越えていくべきか、それと対峙することになるだろう。加えて、子どもの幸せについて考える力を失った親たちはこの英語という言葉の教育に恐ろしいほど勘違いした「期待」を持つことだろう。

けれども、怯(ひる)む必要はない。この始まりは、今までの教育を御破算にして「もう一度始める始まり」だと思えばよいのだ。かつての「ゆとり教育」は無残にも、実際的には否定されたが、否定したのは真摯に取り組むことをしなかった者たちであり、学ぶ子どもたちのまなざしの変化に気づかなかった親を含めた愚かな大人たちであり、学力を定義することさえしないまま学力低下を声高に吹聴した似非教育学者たちであり、商品としてしか子どもたちの学びについて報じようとしないう卑しいメディアの連中なのだ。その陰で、この新しい試みにひたむきに取り組む、悩み、格闘して、子どもたちと共に学びの豊かさや喜びに心を震わせた教師は決して少なくないだろう。

多くの大人たちのイメージする英語の教育は、国語や算数と等しく並び立つ、(意識の上では)主要かつ重要教科として位置づけられるに違いない。しかし、そういう方向へ、つまりは英語という言葉の力が人間の優劣を判定する成績という名の座標軸として位置づけられることになれば、子どもたちの豊かな感性や知性という世界で、英語は死ぬだろう。殺すのは先に述べた愚かな大人たちである。

今一度、挑もう。ため息をつく前に、今一度教育者としての取り組みを始めよう。この英語の教育を通して、子どもたちにとって学ぶということはいったいどのようなことであるのかと考えよう。子どもたちは母語とは異なった言葉を学ぶことによって何が見えるようになるのか、小学校やさまざまな語学教育機関は、本来何を教えるところなのか、教師はそこで何をやるのか、ぼくたちはもう一度原点に立ち戻ってみるのだ。

忘れていた知のダイナミズムを子どもたちの学びに持ち込みたい。小学校英語が、児童英語教育がその始まりの第一歩である。(2019/10/01)

Doing projects with young learners: theory and practice

英語授業におけるプロジェクト・ワークを通して、子どもたちは知的技能、自己教育技能、運動感覚技能、社会文化的技能を伸ばしていくことができると同時に、楽しみながら、ねらいを持ちながら、自然に言語を習得していくことができます。今夏のセミナーでは、プロジェクト・ワークの具体的な方法に焦点をおきます。5日間の集中セッションを通して、プロジェクト・ワークの計画と手順の実際、子どもたちの想像力を生かした発表方法の工夫という実践的な内容に加えて、プロジェクト・ワークを中心に置いたシラバス作成と、個とグループにおける評価方法についても学習します。プロジェクト・ワークの効果を正確に理解し、その方法について実践することを通して、教室ですぐに活用できるアイデアを得ることができます。

なぜプロジェクト・ワークなのか。その明確な答えが本セミナーにあります。みなさんの参加を心からお待ちしております。

Why is project work both effective and fun? Through these workshops we hope to answer this question.

As teachers we appreciate that children have a range of learning needs. These include: intellectual skills; learner independence skills; physical/motor skills and social skills.

Project work in the English classroom encompasses all these aspects, but more importantly, through carefully chosen and well-designed projects, teachers can make learning language effective, fun and motivating. Project work encourages the natural acquisition of language.

In this series of workshops we will examine the theoretical background to experiential learning; how it addresses the needs of learners in a holistic way but for most of the sessions we will turn our attention to more practical aspects. We will look at how to do a project from the first idea to the finished product, and ways of displaying the project in an imaginative way. We'll examine ways of meeting institutional needs: how to tie the project in with the syllabus and with assessment – both formal and informal; and how to keep track of individual and group progress.

Most of all, practical ideas for primary pupils will be explored. Like your students, you will learn by doing! Participants are encouraged to bring ideas for project work to share with the group. By the end of the workshops everyone will

- understand the advantages and the challenges of project work
- have had practice in trying out a number of projects
- have planned a new project to take home to do with their class.

I hope you can join me, to share ideas and practical activities.



1. IIEL Greenwich Campus, Charlton House

2. Front garden

3. 授業の様子

4. 授業の様子

5. 授業の様子

Diane Phillips

STEC Academic Co-ordinator
Lecturer with the Open University
Inspector for the British Council
Publications include Teaching Practice Handbook (Heinemann) and Projects

Living in Greenwich

偉大なる歴史を誇り、今なお世界の文化の発信地である英国・ロンドンがキャンパスです。英語の本場で深呼吸をしながら、一クラス上の国際感覚を身につけます。本部キャンパスは400年前に当時の皇太子プリンス・ヘンリーのために建てられた教育施設です。

▶ ロンドン・グリニッジ、アコモデーション

Key Information

■ タイプ
ホームステイ

■ 地域
ロンドン市内

■ 食事
朝・夕食付き

■ 設備
1人部屋

■ 初期手配料
60ポンド

■ 宿泊費
週180ポンド

※手配は1週間単位で承ります。

ロンドン・グリニッジ

IIEI本部はロンドン南東部にある世界遺産都市「グリニッジ」にあります。グリニッジは、古くは英国王室との繋がりをもち、海事、貿易の街として繁栄した街です。現在は、経度0の子午線が通る世界標準時の街として世界中にその名が知られ、今日も数多く残されている壮大な歴史的建造物や週末のマーケットはロンドンの観光名所の一つとなっています。2000年祭のミレニアム・ドーム(現 The O2) 建造を始め、サッカーのイングランド代表チーム、元キャプテンのデービッド・ベッカム選手がサッカー学校The David Beckham Academyを開校したり、また、2012年のエリザベス女王即位60周年を記念し、皇室から与えられた称号“Royal”を冠したRoyal Borough of Greenwichに区名が改称されるなど、ロンドン市内においても注目を集める街となっています。

アコモデーション

英国国際教育研究所学生相談室では、受講生のためにアコモデーション(ホームステイ)を手配しています。また、何かトラブル等が生じた場合には速やかに解決できるように、学生相談室がアドバイスやお手伝いをします。

【ホームステイ】

手配するホームステイは、1人部屋で、一日2食(朝・夕)付きになります。定期的に各家庭を訪問し基準を満たしているかどうか確認していますので、留学生が勉強するのに適した環境が保障されています。なお、親子ホームステイや学生寮の手配を希望の場合は相談ください。

【アコモデーション制度を利用する場合】

入学手続き時に所定の申込書に記入の上、申し込んでください。



1. Homestay - Bed room

2. Breakfast



How to apply and more

1. 児童英語教師養成課程

1) 学費

1,600ポンド

日本事務局への支払いを希望の場合は、日本円に換算したInvoice(請求書)を発行します。

2) 出願方法

以下を提出してください。

- ①入学願書(定型)
- ②英語力の証明*1
- ③課題レポート

「日本の小学生が英語を勉強することで何が生まれるか」*2

- ④入学審査料(100ポンドまたは1万5千円)

※提出された出願書類(入学審査料を含む)は一切返却いたしません。

*1

以下のいずれかを提出してください。

- ・英語試験結果。
- Common European Framework of Reference for Language (CEFR) のB1レベルに相当するもの。B1レベルに相当するかどうか不明な場合は研究所にお問い合わせください。例)IELTS試験の場合 Listening 4.0 / Speaking 4.0 / Reading 4.0 / Writing 4.0
- ・高校・大学の卒業証明書または大学の在学証明書。

*2

作文の作成にあたっての注意事項

- ①作文は日本語で作成すること。
- ②作文の分量は800字程度で作成すること。
- ③作文の作成にあたっては、手書き、あるいはPC等の使用のいずれでもかまわないが、手書きの場合は万年筆やボールペンを用い、鉛筆等の修正可能な筆記用具は用いないこと。
- ④分散しないよう綴じて提出すること。
- ⑤作文は、出願者本人によって作成されたものであること。
- ⑥作文の作成にあたっては、参考文献等から引用した部分についてはそれを明記すること。
- ⑦作文は、コピーではなくオリジナルを提出すること。なお、提出されたレポートは合否に関わらず、返却しない。

*2

作文提出に代わるインタビュー(スカイプインタビュー)も実施しています。詳細はお問い合わせください。

3) 入学審査料の支払い方法

右記「支払い方法」の項を参照してください。

4) 合否結果

出願書類が受理後、1週間以内に入学審査が行われ、合否の結果が出願者本人に通知されます。なお、通知や書類はすべて入学願書に記載されたメールアドレスもしくは住所へ送られます。メールアドレス、住所が変更になった場合は、速やかに文書で連絡してください。

5) 入学手続き書類

合格者には合格通知書とともに入学手続き案内等の書類が送られます。合格通知発行後2週間以内に入学手続きを行なってください。

注1) 期日までに入学手続きを完了しない場合は、入学辞退者として取り扱われます。

注2) 入学手続きは学費(入学金を含む)の受領後、開始します。

6) 入学手続き終了後、以下の書類が送られます。

- ①入学許可証(Certificate of Admission)
- ②選定教科書および選定教科書購入について
- ③学生生活ハンドブック
- ④ビザに関するお知らせ
- ⑤入学式案内
- ⑥その他

2. 国際コミュニケーション能力開発法セミナー・児童英語教育

1) 学費

第一次締切日2020年12月15日まで: 112,000円/ £800.00

第二次締切日2021年3月15日まで: 126,000円/ £900.00

第三次・最終締切日2021年6月15日まで: 140,000円/ £1,000.00

2) 申込方法

以下を提出してください。

- ①申込書(定型)
- ②学費
- ③アコモデーション初期手配料 60ポンド(希望する場合のみ)
- ④滞在費(希望する場合のみ)

3) 学費の支払い方法

下記「支払い方法」の項を参照してください。

4) 申込手続き終了後、以下の書類が送られます。

- ①入学許可証(Certificate of Admission)
- ②学生生活ハンドブック
- ③ビザに関するお知らせ
- ④その他

◆ 支払い方法

お支払いは、銀行振込み、小切手(Payable to IIEL)、クレジットカードまたは現金(事務局で直接支払う場合のみ)で受け付けています。銀行振込の場合は、振込控え(コピーも可)を他の提出書類と一緒に送ってください。振込控えのない場合は、振込み日、振込み金額、利用された銀行名および支店名を書いてお送りください。振込手数料は全てお振込者負担とさせていただきます。

【振込先】

●英国

銀行名 HSBC Bank Plc
支店名 Holborn Circus Branch
支店番号 40-11-58
口座番号 80390305
支店住所 31 Holborn, Holborn Circus, London EC1N 2HR, UK
受取人 Institute of International Education in London,
Charlton House, Charlton Road, Charlton,
London SE7 8RE, UK
IBAN GB20HBUK40115880390305
BIC HBUKGB4194P

●日本

銀行名 三井住友銀行 麻布支店
支店番号 270
口座番号 普通 768847
受取人 英国国際教育研究所日本事務局

注1) 一旦納入された学費(入学金を含む)は、クラスが開講できない場合を除き、理由の如何を問わず一切返却いたしません(入学をキャンセル、途中退学された場合等も含む)。

◆ 出願書類提出先

英国本部 enquiries@iiel.org.uk
日本事務局 japan-office@iiel.org.uk



英国国際教育研究所

Institute of International Education in London

IIEL, Charlton House, Charlton Road,
Charlton, London SE7 8RE, UK

お問い合わせ先

英国

E-mail enquiries@iiel.org.uk

日本

E-mail japan-office@iiel.org.uk

ホームページアドレス

<http://www.iiel.org.uk>

IIEL 児童英語教師

GO